

# ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.56



## 拡散する 動画投稿アプリの懸念

NET情報技術推進ネットワーク株式会社  
篠原嘉一（しのはら・かいち）

15秒という短い動画投稿になると、次のステップとしてラインライブや17ライブのように、生放送できるアプリへとステップアップしていく。テレビのCMで楽しさばかりが強調されている動画配信は、プライバシーが引き換えに失われていくことを知っておかなければいけない。投稿をするなどということではない。投稿するならば、安全対策をしっかりと考えてほしい。将来好きな人ができて、一緒に歩けないかもしれない。彼の存在を明かすと、彼が攻撃されるかもしれない。今起きているストーカー事案も、ヤキモチから交際相手が被害に遭う事例が多いのだ。

今年になってから、急激に流行り出したTik Tok（ていっくとく）という15秒間の動画を投稿するアプリがある。いくつかのパターンの音楽に合わせて、ダンスをするだけで簡単に動画が作成できるアプリだ。ユーチューブのように投稿したからといって利益が出るわけではないが、「誰でも有名になれる」「みんなに見てもらえる」と子どもたちは自分を手軽に表現している。これまでもいくつかの投稿アプリはあったが、Tik Tokは15秒という短さが受けている。待てない世代には、この短さが受け、ながらスマホでいくつもの動画が再生されている。

自分を表現することは良いことだが、芸能人と一般人は違う。テレビと違い、ネット投稿動画は、何度も再生できる。検索で探せる。日本だけにはとどまらない。そのリスクを保護者が理解しなければ子どもが守れないのだ。

芸能人はプロダクションやマネージャーがいて、ある程度守られているが、一般人がネットを使い、広範囲に拡散させると、思いもしない人たちの目

にも触れるのだから、当然、ストーカー的なファンもできてしまう。私のところにくる相談もストーカーのような事案が増えてきている。過去のツイッターから目をつけられた女性が、動画投稿をしだすと、強烈なファンになり自宅に訪ねて来る。芸能人なら自宅が特定されない対策が取られているが、安易に投稿してしまった一般人は過去の投稿画像から、行動パターンや居場所が特定されやすく、通学路で待ち伏せされることもある。

これまでのストーカーは、1対1での被害が大半だったが、SNSや動画投稿でファンがつくと、大勢の人物が近づいて来る。一般人では大勢のファンには対応ができない。ファン側はあくまでも会いたくてやって来るだけだから、一概にストーカー扱いもできない。しかし、自宅や学校に思いもしない人物が頻繁に会いに来るストレスは過大だ。一歩間違えれば、ファンはストーカーに変わるかもしれないのだ。

動画投稿がいつときのブームだとは思えない。

iPhoneやiPadはOS12にアップデートすることにより、アプリの使用状況が管理できるようにになった。「設定」→「スクリーンタイム」を選ぶと、使用時間が現れる。使用時間制限もかけられる。「設定」→「バッテリー」を選ぶと、24時間以内と10日間のアプリごとの使用時間も使用時間帯も確認できる。

動画投稿アプリを長時間使用している形跡があれば、見ているだけなのか、投稿しているのかを、保護者は知っておく必要がある。

Tik TokもLINEやツイッターを通じて友達に投稿が知られやすい。仲のいい友達には見られても構わないが、同級生や先生には見られたくないという生徒が多い。しかし、そうそう都合よく配信はされない。見てほしくない人にもアプリ同士の連携で見られてしまうのだから、見られるリスク、配信するリスク、ストーカー対策、写り込んだ人物の肖像権、消えないリスク……しっかりとリスクを考えて自らを守る力身につけてほしい。